

研究主題 「一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育の推進」に関する本校の実践

久喜市立栢間小学校

- 1 教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小中連携（小中一貫）をとおして具体的にどのような取り組みをしているか。

1、具体的な取り組み

(1) 小・中の連携

○目的

- 1 小・中児童生徒や教員の交流を図り、中1ギャップの緩和及び解消を目指す。
- 2 9年間の学びを一体のものにとらえ、発達段階を踏まえた一貫性のある継続的な指導を行う。

○意義

- 1 教科等の指導における学力の向上としての意義（基礎・基本の確実な習得）
- 2 生徒指導における円滑な接続としての意義（学校生活への適応）
- 3 連携教育を充実させる相互理解としての意義（教員の相互交流による小・中間の取組の理解）

○小・中連携事業を行う基本的な考え

- ・児童生徒の交流機会を作り、中1ギャップの軽減による中学校生活への適応を目指す。
- ・中学校教員による出前授業と小学校教員の中学校への授業参観を実施し、児童生徒の様子を共有し、今後の学習や生活の指導・支援に生かす。
- ・情報の共有化
中学校区生徒指導推進委員会を実施し、地域の代表の方々の参加を頂き、各校の情報交換を行う。

○連携事業

1 児童生徒間の交流

・陸上部交流

7月に行われた全国小学生陸上競技交流大会埼玉県予選に向けて、高学年の児童が菖蒲南中陸上部の練習と一緒に参加した。練習に参加することにより技能や知識を高めるだけでなく、中学生のよいところを学んだり、感謝の気持ちをもって最後まで力いっぱい取り組んだりできるようになった。

・バスケット部交流

毎年12月に久喜市バスケット大会が実施されている。その練習に中学生が自主的に参加してくれていたが、今年度は、連携事業として交流を考えている。技能の上達だけでなく、スポーツマンとしてのルールも学ぶよい機会としたい。

・夏休み学習ボランティア

小学校で開校しているサマースクールに、ボランティアとして中学生が児童の学習の支援をしている。わかりやすく教えてくれるので、学習意欲の向上が図れ、自分の計画した学習をやり遂げることができた。

・部活動体験

12月に実施。6年生に体験したい部活の希望を取り、中学校に行って実際に体験をする。入学してから部活を選ぶときの参考にする。中学校で活動している部活の種類や活動内容を知り、その後の選択に生かしたり中学校生活への不安解消につながった。

・中学生による小学校訪問（中学校の生活説明）

・入学説明会（学校、部活見学）

中学生（生徒会役員）が自分たちの出身校に、中学校生活の紹介やきまりなどをプレゼンを用いて説明に来てくれた。6年生は、質問に答えてもらい、中学校生活への夢や希望をもつことができた。また、入学説明会では、中学校や部活動を見学したりして中学校への橋渡しがスムーズにできるようにしている。



2 教師間交流

- ・授業参観及び新入生小中連絡会

中学校へ進学した1年生の授業を見に行き、子どもたちの活躍の様子を参観してくる。その後、小中連絡会で、生徒指導上の問題を話し合い、今後の学習や生活の指導・支援に生かしている。

- ・小中交流出前授業
中学校の教員が6年生に、理科の「モーター」の交流授業を行った。授業の中での子ども様子を共有して、児童理解に役立て中1キャップに備えている。
- ・小中連絡会
進学する児童の学習や生活の様子、生徒指導上の問題点を話し合い、情報交換をして共有することにより、不登校やいじめなど生徒指導上の課題の解決を図り、中学校への健全な橋渡しをしている。

○成果と課題

児童生徒の交流だけでなく、小中の教師も情報を共有することで中学校生活への適応を図ることができ、スムーズな橋渡しが生徒指導上の課題解決につながっている。また、小中の連携事業だけでなく、中学校区生徒指導推進委員会や地域との連携を図り、各学校間の情報交換を行い共有することも、児童理解を深め、不登校やいじめを起こさせない取組につながっている。

今後も中学校と情報交換をし共有することで健全な成長の育成を図っていききたい。

(2) 児童と教師の信頼関係を築く取組み

①生徒指導委員会の開催と充実（毎月第4金曜日）

- ・生活目標の評価や今後の指導の手だてを話し合う。
- ・年間生活目標や月別生活目標の取り組みの様子、児童の変容、残された課題等を中心に話し合い、「生徒指導委員会の報告」をして全職員で共通理解をした上で指導援助を行う。

②各学級における問題行動等の提示（長欠児童や学級生活に適應しにくい児童の状況等）

その指導過程や今後の指導方法の検討を行う。全職員が共通理解をした上で指導、援助ができるようにする。

③「学習規律・基本的な生活習慣」の定着

○「あいさつ運動」の実施

- ・「呼び水」として教師があいさつ十一言の言葉かけを学期始めに昇降口で行う。
- ・代表委員会を中心に児童同士でもあいさつ運動を進める。
- ・あいさつ総選挙で選ばれた「あいさつ名人」が昇降口で、あいさつ運動をする。

○「あいさつ・くつそろえ」運動の実施

家庭と連携を図り、年2回実施し、自己評価をして達成を図る。

○「自己評価」の実施・・・「スマイルカード」と名付けた評価カードを利用して、月別生活目標の評価をして規律ある態度の目標達成状況を検証する。

④自信と誇りをもった子どもの育成

○「できる・わかる・かかわる」授業の充実

- ・算数科を中心に少人数指導やTTによる指導、習熟度別学習等を積極的に取り入れ、個々の児童に対応した指導法の工夫を行い、計算などの基礎学力の定着を図る。

・基礎タイムの実施

漢字や計算を繰り返しドリル学習する時間を、全校一斉に設けて取り組んでいる。

定着度をみるために、学期ごとに80点を合格点として検証テストを実施している。

・課題研修の推進

主題「自ら学び、積極的にコミュニケーションを図ろうとする子の育成」とし「一授業一工夫」を合い言葉に、算数科と特別活動を中心に研修を進め、基礎基本の定着とともに自己表現力の育成に努めている。

○特別活動の充実

- ・異学年集団による活動・・・ふれあいタイムでの遊び、昔の遊び集会で高齢者との交流
クリーン栢間の除草活動

・学校行事や集会活動での活躍の場（だれもがリーダー）

児童集会等の司会の経験、始業式・終業式での作文発表、分担した係の遂行

・「わくわくタイム」ロング昼休みの実施

40分間の休憩を確保し、クラス遊びや全校遊びなどを自主的に計画、実施することにより、自主的、実践的な態度を育てている。

⑤一人ひとりを大切にされた学級経営の充実

- ・確かな児童理解により児童一人一人のよさを多面的にとらえ、授業の中に生かしていく。

- ・一人一人の存在感のある学級集団作り、認め・励まし・高め合える学級集団作り

自信をもたせるような温かい言葉かけ。日記や作文指導を通して児童とのコミュニケーション。

○成果と課題

今後も学級や学年の枠を取り除き、児童一人ひとりに目を向け、全職員の共通理解のもと問題行動の早期発見に努め指導を積み重ねていききたい。また、教師、保護者、地域が一体となって児童理解に努め、信頼関係に立った教育を推進していききたい。

